

## ボールゲーム・ネット型ゲームにおける評価基準に対する手立て【思考・判断・表現】

	C	B	A
低学年 (ボーラー)	規則の工夫を提示し、選ばせる。	ゲームの場や規則の中から、楽しく行うために自己に適した場や規則を選んでいる。 教師の助言・チーム内での話し合い・動画視聴によって自分やチームに合った規則に気付かせる。	ゲームの場や規則の中から、楽しく行うために自己やチームの特徴に応じた場や規則を選んでいる。
	望ましい動作や言葉(ワークシート等)を例示する。	ボールを投げたり蹴ったりするときに行なった工夫を、動作や言葉で友達に伝えたり、カードに書いたりしている。 児童の望ましい動作や言葉を紹介することで、新たな気付きや方法を共有する。 ボールを捕つたり止めたりするときに行なった工夫を、動作や言葉で友達に伝えたり、カードに書いたりしている。 児童の望ましい動作や言葉を紹介することで、新たな気付きや方法を共有する。	ボールを投げたり蹴ったりするときに行なった新たな気付きや方法を、動作や言葉で友達に伝えたり、カードに書いたりしている。 ボールを捕つたり止めたりするときに行なった新たな気付きや方法を、動作や言葉で友達に伝えたり、カードに書いたりしている。
		ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ることについて友達のよい動きを動作や言葉で友達に伝えたり、カードに書いたりしている。 児童の望ましい動作や言葉を紹介することで、新たな気付きや方法を共有する。	ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入ることについて友達のよい動きを動作や言葉で友達に何度も伝えたり、カードに何度も書いたりしている。
中学年 (ネット型ゲーム)	規則の工夫を提示し、選ばせる。	コート内のボールの触球回数、得点の入り方などの規則を選んでいる。 教師の助言・チーム内での話し合いによって自分やチームに合った規則に気付かせる。	コート内のボールの触球回数、得点の入り方などの規則を自分やチームの特徴に応じて選んでいる。
	いくつかの作戦を提示し、選ばせる。	自分とチームの友達との連携を踏まえた作戦を選んでいる。 ゲーム①での相手の特徴に焦点を当て、分かったりしたことをチームで会話させる。	自分とチームの友達との連携と、相手チームの特徴を踏まえた作戦を選んでいる。
	望ましい動作や言葉、絵図(ワークシート等)を例示する。	易しいネット型ゲームで、攻めや守りの際の工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。 他のチームの声掛けやプレイの例示をして、自分のチームの参考にさせる。	易しいネット型ゲームで、攻めや守りの際の工夫や声を掛け合う連携などのいろいろなよいプレイを、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。
高学年 (ネット型ゲーム)	規則の工夫を提示し、選ばせる。	自陣でボールに触れるができる回数を設けてプレイの制限をするなどのルールを選んでいる。 教師の助言・チーム内での話し合い・動画視聴によってこれまでのゲームで使用したルールを基に、付け加える等して、新たなルールに気付かせる。	自陣でボールに触れるができる回数を設けてプレイの制限をするなどのルールを選ぶとともに、新たなルールを提案している。
	いくつかの作戦を提示し、選ばせる。	チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認している。 ゲーム①での自チーム個人の役割に焦点を当て、動画確認をしたり、分かったりしたことをチームで会話させる。	チームの特徴に応じた作戦を選び、自己や仲間の役割を確認している。
	望ましい動作や言葉、絵図(ワークシート等)、動画教材を例示する。	簡易化されたネット型ゲームで、自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って、他者に伝えている。 動画視聴等の時に、攻めの場合、守りの場合を分けて考えさせ、これまで学習した内容を生かして具体的に動作等を基に話し合いをさせる。	簡易化されたネット型ゲームで、自己や仲間が行っていた攻めと守りの動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って、他者に詳しく伝えている。

参考文献：高田彬成・森良一・細越淳二（2022）『確かな学習状況を見取る小学校の評価基準づくり』大修館書店